

08年6月17日

グローブアンドメール誌記事より抜粋

JSS 和訳

## 落雷事故

6月9日の週末にサスカチュワン州で29才の男性が落雷のために命を落とした。嵐が過ぎて空が晴れ渡った折にである。一緒に庭仕事をしていた母親も重傷だという。

落雷を予想することはほとんど不可能だ。

カナダでは5月から9月が雷雨が多発する季節であり、特に今年は雷雨が多発しているようだ。トロントでは平年で1万1千件以上の落雷があるが、今年は6月半ばのこれまでに通常の2倍以上発生している。また被害状況は、平年で10人程度が落雷で死亡し、125人以上が重症を負う。落雷は南オンタリオや平原州の南部で多発する。ウインザーは中でも多発する地域で、1km平方の地域で年間251回雷鳴が響く。ちなみに雷がまれにしか起きないのは北極圏地域で、イヌビークでは年間1回だという。雷雨に見舞われる回数では、トロントが年間28日、ウインザーが33日、BC州のナナイモではわずかに2日という統計がある。

落雷によって受ける莫大な静電気は、脳、眼、耳（耳鳴りや難聴）、神経系統、呼吸器関係に被害をもたらす、心臓麻痺、そしてやけどなどを引き起こす。

雷は送電線、高いもの（木など）、水、ゴルフクラブや釣竿、自転車、ないしは靴についている金属物など導電物で作られたもの、ポケットの中の硬貨などを通じて被害をもたらすので、被害を避ける配慮が必要である。また、雨を避けるために高い木の葉陰に逃げ込むのはむしろ危険であり、避雷針を備えた、しっかりした建物の中、ないしは屋根のある車の中に避難する。近くに隠れる場所が無い場合、地面にうずくまる（横になってはいけない。横になるとむしろ落雷を受けやすい。）ことが肝要で、またゴム底の靴が絶縁してくれることを信じてはならない。雷に伴う雨で絶縁は無効になっている。